

研究・調査報告書

報告書番号	担当
374	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳） Alcohol and tobacco consumption among Albanian immigrants in Florence. フィレンツェにおけるアルバニア人移民の飲酒と喫煙	
執筆者 Allamani A, Innocenti FB, Innocenti A, Cipriani F, Voller F.	
掲載誌（番号又は発行年月日） Subst Use Misuse. 2009;44(2):282-300.	
キーワード フィレンツェ、アルバニア人、インタビュー	
要 旨 目的： 本研究の目的は、1990年の共産党支配崩壊後にフィレンツェ(イタリア)に移住したアルバニア人の飲酒、喫煙、飲酒量関連の問題に関する情報を得ることでした、 方法： 2001年10月～2002年1月の間に、フィレンツェ市に住んでいる141人のアルバニア人を便宜主義的なサンプルとして、彼らの喫煙と飲酒、飲酒パターンと健康問題についてインタビューしました。インタビューを受けたのは主に過去に続けて4年間イタリアに住んでいた平均年齢28歳の男性(81%)でした。 結果・考察： 92.9%は飲酒しており、好んで飲まれていた酒種はワインとリカー（蒸留酒）でした。一日当たりの平均消費量は、純粋アルコールにして39.5グラム/日、男性では48.1グラム/日でした。（この量は比較可能なフィレンツェの男性のサンプルと比べると3.5倍多かったです）。また、アルバニア人は喫煙率(49.6%対39.6%)と救急治療室の来室率(24.1%対0.37%)がフィレンツェの男性以上でした。飲酒量がこれほどに多量であることが、フィレンツェに住むアルバニア人に報告されている、高い事故率や暴力事件と関係しているかもしれません。移住による社会文化的な変化を含め、そのような大量飲酒を説明するためのいくつかの仮説について議論しました。研究の限界についても書きとめています。	